

## 千葉工業大学情報基盤整備におけるクラウドサービス導入について

発表者 中村 直人（千葉工業大学 情報システム委員会委員長）

本学は、理工系大学として学生数約1万人、津田沼と新習志野の2つのキャンパスを有する大学である。これまで情報基盤、とくに学内LANにおいては、情報センターと研究室をファイバーケーブルで直収するFTTDを他の大学に先駆けて導入するなど、高可用性と管理・運用コストの軽減を実現した。

また、現在大学教育においては、その質保証・学習時間の確保が重視され、本学では今年度入学者より全学生にタブレット端末iPadを配布するなど新たな試みが開始された。さらに、教務システムや図書館システム、演習室システムのDaaS導入など学内のサーバ群を学外のデータセンターに移設するといったクラウド利用を順次始めた。

このような取り組みをさらに進めるため、今回上記の情報環境の変化に対応した新たな学内LANとして、DNS・DHCP・LDAP、ADやIdPといった統合認証基盤など約20台分の基幹サーバ機能を高速性・セキュリティ・コストを考慮してSINET4経由でクラウドサービス化した。また、利便性向上のため学内無線ネットワーク基盤を大幅に強化した。

本発表では、本学の情報基盤整備のあゆみを紹介すると共に、更改した新たな学内LANのねらいと運用状況について報告する。

以下に、今年度構築したネットワーク構成概要図を示す。

